野外着陸（アウトランディング）

Ver.1.2　May 27, 2016　和訳：SATA日口裕二
監修：吉田茂（中部日本航空連盟）

野外着陸（アウトランディング）は、全てのパイロットの経験や飛行能力を向上させます。このセーフティーブリーフィングは、経験の如何に係わらず、グライダーパイロット全ての方が対象です。

先行して計画する、そして大事なのはグライダーをちゃんと飛ばすこと

着陸場所を選択しパターンに入れて着陸する時、パイロットがその進行に対し受け身で対応するとストレスや心の動揺した状態に簡単に陥ります。　着陸場所の選択遅れは、野外着陸（アウトランディング）時の事故の原因として良く知られています。　理由は明白です。　先行して計画することでパイロットはそのストレスや心の動揺を抑えることができます。

- ●飛行前に、飛ぼうとするエリアでその季節なら野外着陸（アウトランディング）するような場所はどのようになっているかを考えること。　飛行中、風は弱かったですか？それとも強かったですか？　風が弱いなら長いフィールドが必要で、進入方向も誤り易くなります。　風が強ければタービュランスを受け、進入中ウィンドグラジュエントがあるかもしれません。
- ●必要なら、安全に着陸できると自信が持て、適度に平らで障害物のないエリアに十分に届く範囲で飛行すること。　通常、風下側にはより広い面積をカバーできることを覚えておくこと。
- ●ソアリングの計画には野外着陸（アウトランディング）の事を含めておくこと。　高度が十分に高かったとしても、前方の空を概観
  したら、下方に拡がる地形も考えておくこと。　それほど長く飛び続けられないという兆候を掴んだら、間もなくどこかに着陸しなければならないということを受け入れることが大切です。　そんな状況を受入れなかったり見当違いの自信は、結果として危険な遅い決心になります。
- ●もしあなたがエンジン付きのグライダーで飛んでいるのなら、自分の滑空場でエンジンを展開しかつエンジンをかけずに場周飛行をする練習をすること。　フライトマニュアルや他の経験者の話を参考にすること。
- ●意図しないストールやスピンは人生を変えてしまうような大怪我に繋がります。　いろいろあっても、常に**グライダーをちゃんと飛ばす**ことが一番大事です。

着陸場所の選択

場周高度になってしまう十分前に、適切だと思われる２～３か所のフィールドを特定しておくこと。　この時、その周辺の地形も考慮しておくこと。

- ●タービュランスを生み出したり地表の風に問題を引き起こすような丘はないか？
- ●電線や他のヤバイ障害物はないか？
- ●地面の傾斜が目で見てわかるか？　そうだとして、他の条件が登り斜面への着陸を許容するとしても急過ぎないか？

以下を考慮しつつ、フィールドを選ぶこと：（６S）

- ●Size：利用可能で適切そうなフィールドの中でできるだけ大きなものを選ぶこと。　対角で着陸することも考えること。
- ●Surface Wind：飛んでいる間はいつも風を気にしていること。　PDAの風（NAVコンピュータ等で計算された風）、雲の影、ドリフト、煙など全てを使って風を知ること。　常に風に正対するかそれに近い方向で着陸するようにすること。
- ●Surrounds：フィールド周囲の状況は進入にどのような影響を与えそうか？　障害物はそれをクリアするため、その高さの少なくとも10倍の長さ分使えるフィールドを狭めます。　電線はまず見えないので危険です。

木々や建物は同様にタービュランスの発生源です。

●Slope：谷底にあるフィールドは急斜面になっていることが多い。　傾斜は上からよりも横から見た方が判り易い。　下り斜面と判るところには絶対着陸してはならない。　登り斜面のフィールドへの着陸はOKですが、特に進入速度、引き起こし（のタイミング）とレベルオフに注意が必要です。　グライダーがバックしないよう、ブレーキを掛ける準備をする必要があります。

●Stock：羊はパニックを起こし、走り回ったり、時には飛び上がったりします。　牛は好奇心が旺盛です。馬は急に駆け出します。　牛が一匹でいるとしたらそれは恐らく暴れ牛です。　家畜のいるフィールドは避けるようにしましょう。

●Surface：フィールドについて好ましい順に列記するが、季節を考慮しながら判断すること。

1．既知の安全なランディングストリップ（未舗装の離着陸帯）や滑走路
2．刈り取ったばかりの耕作地
3．草地。　地面の起伏や牧草地とするための細長く仕切ってある電気柵に気を付けること。　草地の影のように見える場所には殆ど潜在的な危険が潜んでいます。
4．短く刈り取られた耕作地。　地表は緑よりも茶色っぽく見えるでしょう。　刈り取られた後の耕作地にも着陸の障害はあるかもしれません。　半分実った作物畑は、時にトウモロコシなどを刈り取った後のように見える事を覚えておくこと。

もしターボ、ジェット、FES（機首にプロペラを持ったグライダー）やその他の動力手段を持っているなら、降りられるであろうフィールドを確保しつつエンジンスタートを試みることもできるでしょう。　ただし、その際には必要に応じて注意深く選択した不時着場を手元に持っていること。

場周、進入、着陸

短い時間は視界外であっても良いが、選択したフィールドを常に特定できるようにすること。　間もなく進入する時に方向を定めやすくするような地形の特徴を掴んでおくと助かるかも知れない。

速度計をモニターする頻度を増やし、**グライダーをちゃんと飛ばすこと**。

いつものように、グライダーを十分風上側に、そして着陸帯の一方の側に十分離して位置すること。

自然に場周が狭くなる傾向に気をつけ、これを避けること。　常に自分のイメージ通りになるよう、高度、距離そして角度を上手に使うこと。　もし必要ならエアブレーキはどの時点でも使えるということを忘れないこと。その際は、速度計をモニターすること。

エアブレーキ開度1/2～2/3の進入（角）を計画すること。安全な進入速度を選択すること。　過剰な速度では通常フィールドに停止できないことになります。　樹木の間に進入する時には特に電線の存在に用心すること。障害物を飛び越えなければならない時は適度な高度マージンを持つこと。　障害物を安全にクリアできると確認したら、エアブレーキを全開にしてできるだけ早く接地すること。　穴に嵌るリスクを避けるため、地上滑走を伸ばさないこと。　耕作地の着陸にはグランドループがつきものです。　主翼を水平に保つことに集中し、地上滑走中はフラップを上げること。

追加情報

クロスカントリーのエンドースメントのために必須な野外着陸の要求事項に加え、パイロットにはSLMG（Self Launching Motor Glide）による定期的なリフレッシュ・トレーニングをお勧めします。
確り学習し、以下の文書、ビデオを参照すること。
https://members.gliding.co.uk/pilot-resources-flying-training/field-landing/

※この原稿は、TGCM2016参加者用に配布された未定稿です。

※BGA はサイトに掲載している英文を翻訳し、活用することを推奨しています。